地域包括ケアの地区展開　令和８年度　池尻　地区アセスメント

人口

面積（ｋ㎡）	人口（人）	人口密度（人/ｋ㎡）	高齢者人口（人）	高齢化率(%)	年少人口（人）	年少人口率(%)	世帯数（世帯）	平均世帯人数（人）	高齢者がいる世帯数	高齢単身者世帯数	高齢者のみ世帯数	その他高齢者がいる世帯	高齢者がいる世帯率(%)	内高齢単身・高のみ世帯率	介護保険認定者数(人)	認定率(%)	障害者手帳保持者 身体障害者手帳	愛の手帳	障害サービス受給者 自立支援給付	障害児通所給付
1.186	24,517	20,672	4,157	16.96%	2,462	10.04%	15,077	1.63	3,127	1,595	727	805	20.74%	15.40%	868	20.88%	420	94	108	85

傾向

〇世田谷区の東に位置し、東側で目黒区に境を接している。北側は淡島通りで代沢地区と接し、南では下馬地区、西では太子堂地区に接している。池尻１～４丁目と三宿１～２丁目からなっている。バス、鉄道など交通の便は良い地区である。また高齢化率は世田谷区の中では低いほうであり、都心に近く通勤便利なこともあり働く世代が多く居住している。

地域活動

町会・自治会数	会員世帯数	サロン等登録団体数	サロン	子育てサロン	ミニデイ		社協・新たな居場所登録団体数	社協・民間施設の活動場所発掘件数	社協・地区サポータ登録者数	生活支援体制整備事業　協議体開催回数	資源開発・生活支援サービス件数	
8	11,542	14	10	3	1		3	24	31	17	5	

主な活動団体とその取組内容

平成２３年に立ち上げ地域の困りごと等の情報共有の場として毎年開催している「三宿池尻まちこま会」。令和８年度は、「地域の防災」をテーマに、行政・福祉・民間企業・住民等の関係者が集まって、それぞれの立場での発災７２時間の動きについて共有・意見交換を行う。
コロナ禍を契機に「まちなか作品展」など新たに開催した事業や、四者連携の多世代交流事業として「みちあそび」や「そとあそび」などを展開している。また、国道246号北側に多世代交流ができる居場所が少ない地域課題の解決に向け、「みんなのひだまり」を開催している。

生活支援

地域密着型サービス 定期巡回･随時対応型訪問介護看護	夜間対応型訪問介護	認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護	認知症高齢者グループホーム	地域密着型特別養護老人ホーム	ショートステイ	特別養護老人ホーム	介護老人保健施設	都市型軽費老人ホーム	サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム	うち、特定施設入居者生活介護
0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0

障害者・児　通所系・共同生活援助等

障害者施設（生活介護2・短期入所1・グループホーム１）
障害児通所支援１
障害児通所支援放課後等デイサービス１

障害相談支援機関・相談支援事業所

指定特定相談支援事業所1

医療

医療機関、訪問看護等

病院４か所（地区内）自衛隊中央病院、古畑病院　（隣接区）三宿病院、東邦大学医療センター大橋病院　、診療所９か所※世田谷区医師会ＨＰより
歯科医院８か所※世田谷歯科医師会ＨＰより、訪問看護１か所

子ども・教育	児童館	池尻児童館
	その他、児童施設	世田谷プレーパーク
	おでかけひろば	おでかけひろば三宿 おでかけひろばSHIP
	保育施設	池尻保育園、三宿保育園
	幼稚園	多聞幼稚園
	新ＢＯＰ	池尻小新ＢＯＰ、三宿小新ＢＯＰ、多聞小新ＢＯＰ
	地区内に所在する小学校または関係のある小学校	池尻小学校、三宿小学校、多聞小学校
	地区内に所在する中学校または関係のある中学校	三宿中学校、富士中学校、筑波大附属駒場中学校、世田谷学園中学校、駒場東邦中学校
	地区内に所在する高校・大学等または関係のある高校・大学等	青鳥特別支援学校、筑波大附属駒場高校、世田谷学園高校、駒場東邦高校、 昭和女子大学、食糧学院、国立音楽学院
	子どもに関するその他の事項 ・子ども食堂：フードロスに取り組む企業たべるーぷが、店舗の向かいにある国立音楽院１階オアシスを活用して「たべるーぷ&アジパンダ食堂子ども食堂」を自主事業として不定期に開催している。単発イベントとして「マグロの解体ショー」をホームワークヴィレッジでも開催していた。 ・子育て支援ネットワーク：地区内の子育て支援団体や保育園・幼稚園、地域住民、四者連携が集まり、子育てに関する課題共有と解決に向けた取組みを検討している。今年度は、単発の地域交流事業のほか、マンション集会室を活用した定期的なコミュニティカフェ開催も予定している。	
その他支援	その他の支援機関など（例：就労支援など）	
公共施設	図書舘	池尻図書室
	地区会館、区民集会所など	池尻地区会館、三宿地区会館、池尻区民集会所

住まい・環境・防災

主な公園・緑道・広場	世田谷公園、池尻３丁目公園、三宿の森緑地、目黒川緑道

土地利用、地理的特徴（住宅の特徴を含む）

【地勢】　区の東側に位置し、目黒区と接している。北部に北沢川、烏山川緑道があり、三宿と池尻の境目で合流し、目黒川緑道へと至る。地区南部には、世田谷公園があり、各種スポーツ施設、噴水、花壇、ミニＳＬ等があり、休日は特に賑わいを見せる。

交通の便に関する事項（鉄道・道路）

　鉄道は、東急田園都市線池尻大橋駅があり、最寄り駅では三軒茶屋駅が利用でき、渋谷方面への利便性は高い。
　道路は、「通称・玉川通り（国道246号線）」が地区の中央を、北部には淡島通りが東西に走り、渋谷と西方の各地域を結ぶ多くの路線バスが運行している。また、南北を結ぶ幹線道路は、三宿から淡島を結ぶ都市計画道路（補助26号線：都道）が令和４年10月に交通開放された。道路整備に伴い、無電柱化、沿線の不燃化・耐震化が進み、交通利便性の向上、火災時の延焼遮断帯としての機能、避難路、緊急車両等の通行路として、防災性向上にも大きな役割を果たすことが期待される。
　７年度からは、「世田谷区地域公共交通計画にある区内の公共交通不便地域のうち三宿１・２丁目の一部が重点検討地域に指定されており、地域の気運を確認し今後「新たなコミュニティ交通の導入」のための地元住民による地域協議会を促し検討を進めていく予定。

産業に関する事項（買物・商店街などを含む）

〇商店街は、通称「三宿四ニ〇商店会」いわゆる昔ながらの商店街の形態では無いが三宿通り周辺地区において商店事業者を中心に２００９年に発足した商店会があり全国的に有名になった「世田谷パン祭り」を開催するなど沿道地域の集客力や賑わいの創造に寄与している。
〇世田谷区の新たな産業活性化拠点の取組みである旧池尻中学校跡地を活用したプロジェクトとして、オフィス、飲食・物販店舗、教育・文化・スポーツ施設など、機能を集積した、世田谷の「働く」「遊ぶ」「学ぶ」複合施設「ＨＯＭＥ／ＷＯＲＫ／ＶＩＬＬＡＧＥ」が令和７年４月に開業した。産業活性化拠点として地域経済の持続的な発展を目指すとともに、「次世代からの宿題をみんなで解決する」をコンセプトに地域の活性化や街の賑わいを創出する取り組みを今後進めていく。
※ＨＯＭＥ（＝暮らす）ＷＯＲＫ（＝働く）ＨＯＭＥＷＯＲＫ（＝宿題（社会課題））ＶＩＬＬＡＧＥ（＝集落やコミュニティ）

防災　→　各地区の地区防災計画を参照

地区課題解決の取組み

地区ビジョン
○災害に強い助け合いのまち ○犯罪のない安全安心のまち ○支えあいのやさしいまち

課題、取組みの方向性
＜地区防災力の向上＞ 　池尻・三宿地区では、避難所運営訓練、防災塾、町会・自治会の防災訓練などを行っている。避難所運営訓練については、避難所開設後の班各班の役割や運営ルールの整理・具体化が十分に進んでいない。標準マニュアルを確認しつつ、各避難所の特性に応じたルールづくりなどを進めていく。 　拠点隊運営についても、情報取集や情報交換の具体的な方法などを、地域本部と確認しながら進めていく。
＜交流＞ 　国道２４６号線に分断されている都営池尻２丁目アパート周辺には大型スーパーが無く、高齢者は２４６号線を渡ることが多く買い物に苦労している。都営池尻２丁目アパートでのコンビニエンスストアによる移動販売（令和５年５月より毎週火曜日開催）を継続支援していく。移動販売と併せて月１回開催の誰でも参加できる居場所事業「あおぞら」の機能拡充や、地域の行事等（こどもの日池尻プレーデー、まちなか作品展＆そとあそび、がやがや村まつりみちあそび、みんなのひだまり、ひだまりカフェ、子育てミニメッセin池尻児童館）を通して、多世代で参加・交流できる取組みも同時に進め、顔の見える関係づくりを推進していく。
＜担い手＞ 　一部の町会・自治会等において構成員の高齢化が進み、会員が減っている。一方、地域住民やまちづくりセンター職員の声かけによって地域活動に参加する新たな委員も一定程度存在する。今後は、イベント等を通じて交流したＰＴＡやおやじの会、児童館などでボランティア参加している中高生などと関わりを持つことで地域の繋がりを広げていく。これに加えて、ツクリテやcommonなどオンラインによる地域参加の呼びかけも強化していく。

参加と協働の地域づくりの取組み内容（参加と協働を基盤とした地区課題への取組み）	
①	＜地区防災力の向上＞災害時、身の安全を確保する方法や、在宅避難に必要な備蓄の紹介などを、避難所運営訓練や防災訓練、防災塾などを通して行っている。 また、被災地や避難所の実情や、自助・共助に必要な知識を学べる講義なども取り入れている。より多くの人が訓練や講義などに参加できるよう、広報や内容に工夫を凝らしている。
②	＜交流＞月１回開催の誰でも参加できる居場所事業「あおぞら」の機能拡充や、地域の行事（まちなか作品展＆そとあそび、子どもの日池尻プレーデー、がやがや村まつりみちあそび、みんなのひだまり、ひだまりカフェ、子育てミニメッセ）等を通して、多世代で参加・交流できる取組みも同時に進め、顔の見える関係づくりを推進していく。
③	＜担い手＞地域の困りごと等の共有の場として、平成２３年から「三宿・池尻まちこま会」を定期的に開催している。まちこま会では、町会・自治会をはじめ地域の事業者、学校、ＰＴＡ、警察、消防など様々な方が意見交換、情報交換している。令和８年度は、「地域の防災」をテーマに各団体の発災７２時間の動きについて共有・意見交換を行う。今後も、ＰＴＡやおやじの会、中高生ボランティアなど新規の人たちとの関わりも広められるよう取り組んでいく。また、地域の認知症や障害のある方が地域の一員として活躍できる機会を広げていく。
④	＜居場所＞池尻団地の集会所を活用し、団地自治会のみならず近隣町会や民生委員、四者連携とともに「あおぞら会議」を実施している。地域の方が講師となり活躍する場にもなる定期的なミニ講座を開催し、寄付の珈琲豆を用いた地域交流の場となっている。※同時平行で毎週火曜日にセブンイレブンの移動販売を実施。 また、月に一度、地域の高齢者と児童館の子どもたちがボッチャを通じて交流できる居場所になっている。今年度は、食糧学院と連携し食を通じた地域交流を始めるなど、新たな企画で地域交流・多世代交流を促していく。
⑤	＜買い物支援＞買い物不便支援として毎週火曜日にセブンイレブンの移動販売を実施している。食料品のみならず、高齢者のニーズに応える形で日用品の取り扱いや公共料金の支払い、品切れのものを後日個別に玄関まで配達も可能になるなど、痒い所に手が届く支援となっている。
⑥	＜多世代交流＞四者連携・地域と共に多世代交流のできる「みちあそび」「そとあそび」をスタートさせた。今後も四者連携の地域のイベントとして、細く、長く、「みちあそび」「そとあそび」を定期的に継続し、子どもたちを地域で育てると共に、多世代交流を通して乳幼児、小学生、中高生世代、子育て中の方、認知症の方、高齢者、障害のある方がお互いに助け合える優しい地域づくりに取り組む。